

佐賀新聞 2010(平成22)年1月27日(水) 県内文化欄 連載「近代との遭遇 世界を見る・日本を創る」

スポット SPOT

近代との遭遇

世界を見る・日本を創る

⑤

1886(明治19)年にもかかわらず、サロンで藤、そして黒田清輝と7月、洋面を学ぶ志を抱いた久米桂一郎は、単身にて受賞をほたし、作品が国家買い上げとなるに到着した久米は、先に、すでに大家としての留学していた旧知の洋画家、藤、そして黒田清輝と、正論を得た指導者、早速、久米はコランに入門。かれが教える画塾と、たちまちコランの小さな容赦なく指摘するは、アカデミックな写実描写の中に、屋外の降り注ぐ日差しにも分け隔てなく接し、弟子たちに美への思いを



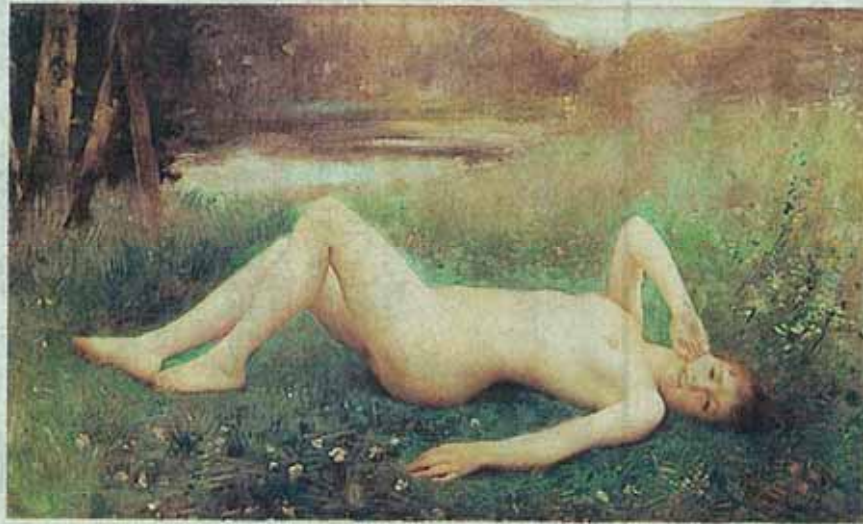
ラファエル・コラン「日だまり」=1896(明治29)年、油彩・カンバス 60.6×81.5cm、県立美術館蔵

日本を愛した洋画の師

り入れた「外光表現」と熱く語った。いささか不呼ばれるもので、この明器用ではあるが、虚飾の着につながっていたのか、光こそが、コランの愛した人柄を久米は深く敬愛していた。

日本の美に愛着

また、コランは日本人画家林忠正と親交があった。岡田三郎助ら多くの日本人画家の入門へとつながり、はるか海を隔てた日本の洋画界に一大変革をもたらすことになったのである。(県立美術館学芸員 野中耕介)



ラファエル・コラン「花月(フロレアル)」=1886(明治19)年、油彩・カンバス 60.0×100.0cm、東京藝術大学大学美術館蔵

写実の中に外光表現

佐賀城本丸歴史館の開館5周年を記念した特別展「近代との遭遇—世界を見る・日本を創(つく)—」は2月14日まで県立美術館で開催。2月8日は休館。観覧料は一般1000円、大学生800円、高校生以下と障害者は無料。関連事業として、学芸員の展示解説(会期中毎週土曜午後2時から、要入場券)▷県立博物館常設展・特別展示「岡田三郎助—洋画の美、花ひらく—」(3月14日まで、観覧無料)▷高辻知義東京大名譽教授講演会「久米邦武の見なかつた町と国・マイセン、ザクセン」(2月7日午後1時半、県立美術館ホール、聴講無料)がある。問い合わせは佐賀新聞社事業部、電話0952(28)2151へ。

県内文化